

第 11 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

平成 29 年 8 月 26 日（土）に第 11 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院新中央診療棟 1 階多目的室 1 で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、附属病院の職員の他にも、院外の医師、看護師、訪問看護師、PT、OT、MSW など様々な職種の方々 38 名の参加がありました。

当院の吉野茂文腫瘍センター副センター長より開会の挨拶があり、当院の緩和ケアセンター山縣裕史助教、宮内副看護師長を司会として、山縣裕史助教の「緩和ケアミニレクチャー」から始まり、各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行いました。

緩和ケアミニレクチャー「アドバンスケアプランニング」

山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 山縣 裕史先生

事例 1：「人生最後に自宅でやり遂げることがあり在宅支援を行った尿管がん事例」

山口大学医学部附属病院 泌尿器科 森 純一先生
宇部協立病院 地域連携在宅医療科 立石 彰男先生

事例 2：「化学療法と並行して在宅支援を導入した食道がん事例」

山口大学医学部附属病院 第二外科 北原 正博先生
西川医院 院長 西川 雅裕先生

参加者の方々からは、「多職種の方と話すことができ良い機会となりました。また参加します。」、「自科の患者の症例であり、振り返ることができて良かった。」などの意見が寄せられ、有意義な検討会となり無事終了することができました。

この度は、様々な職種の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございます。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

《検討会風景》

